

# ライフケアガーデン熱川 デイサービスセンター

症 例 概 要    利用者氏名：S.I様80代 女性 要介護2)

利用期間：5年11ヵ月

既往歴：両側変形性膝関節症    パーキンソン症候群

経過：H24年9月    AOHでのリハ療養を経て、在宅復帰と共に当デイサービスの利用開始。同じ敷地内に家族が住んでいるが、基本的には独居。

当初は歩行訓練を目的に週3回で利用開始となる。機能回復もあり

介護1から要支援に改善していたが、症状悪化し、現在は要介護2。

## 内 容

---

今から5年程前のことです。私は同じ部署のT職員から相談を受けました。

デイ利用者であるS・I様は、読書や手紙を書くことがお好きで、計算や漢字問題、クイズなどにも積極的に取り組んでこられ、ある日、「お子さんに渡してください。」とT職員に手紙を渡したことから、やり取りが始まり、その後、T職員の娘との手紙の交換がはじまりました。ただその後、T職員は産休/育児休暇を取ることで、その手紙のやり取りを私の娘に引き継いでもらいたいとの話をされました。

当時5歳の娘に聞くと「いいよ。」との事で、S.I様と娘の「お手紙交換」が始まりました。たどたどしい文字と文章の5歳の子供の手紙を読んで、S.I様は、「ひらがなは読めるのね」と、ひらがなだけの手紙を書いてくださいました。S.I様は1週間に3回の利用だったため、手紙の交換はほとんど、1週間で1往復のペースでした。今では頂いた手紙が、学習机の引き出しいっぱいに入っています。内容は、娘宛のものなのであまり読まないようにしていますが、娘が書いた学校のことや習い事への励ましの言葉や褒め言葉、暑い寒い等季節のこと、「身体に気を付けよう」、「お母さんの言うことをよく聞く様に」などのようです。娘は、褒められることでとても自信をつけているようです。運動会やマラソン行事のことを手紙に書いた時は、返事が来るのが待ち遠しいようです。また、「気を付けませう。」などの昔の言葉づかいなどにも大変興味を持ったようでした。

今では10歳に成長した娘に合わせて、漢字が沢山書いてある手紙を貰うようになりました。80代後半になり、また昨冬以降、身体の不自由な部分も増えてこられ、自身のことだけでも精一杯だと思われるのですが、ご自分の家族と同じように、地域の娘や孫を見守るように、「手紙のやり取りが楽しみだよ」、「手紙を書いたり、内容を考えたりすることで頭を使えていいよ」と現在も交流を続けてくださっています。

伊豆ならではの密なコミュニティ、決して一方的でない、職員とご利用様が双方向に作用する良い関係。まさに、デイサービスで生まれた地域包括ケアシステムのひとつの形ではないかと思っています。